

## 第1回 令和5年台風13号災害対応に関する市民懇話会 議事録

1 日 時 令和5年11月20日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで

2 会 場 日 立 市 役 所 4 階 庁 議 室 兼 防 災 対 策 本 部 室

### 3 出席者

区 分	人 数	備 考
委 員	21名	座長 信岡 尚道 委員（茨城大学工学部教授） 副座長 中島 美那子 委員（茨城キリスト教大学教授）ほか ※欠席者1名
事 務 局	11名	総務部長、市長公室長、財政部長ほか
その他職員	13名	総務課長、政策企画課長、各部政策監ほか

### 4 座長及び副座長の選出

委員の互選によることとなっており、事務局から懇話会に諮ったところ、事務局に一任されることとなった。

このため、事務局から、座長に信岡委員を、副座長に中島委員を選出することを提案し、特に各委員から意見もなく承認された。

### 5 議事内容

(1) 市の防災体制等について（資料5）に基づき、事務局説明）

【委員からの意見等】 なし

(2) 台風13号に伴う大雨被害と市の災害対応について（資料6）、（資料7）に基づき、事務局説明）

【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	<p>災害時の情報伝達手段として、市の防災無線があるが、今回のような雨の状況では、屋外放送は内容が聞き取りにくい。また、戸別受信機は、常にスイッチを入れておかないと、情報が得られない。このため、情報伝達は、SNSやホームページなど、あらゆる手段を用いて発信していただきたい。</p> <p>今回の災害では、常磐自動車道が崖崩れで通行止めとなり、多くの車両が6号国道に回ったことで、交通渋滞が発生したため、この辺の情報も含めて発信していただきたい。</p> <p>避難所の開設に関しては、「5時頃に避難所を開設しました」や「要支援者を避難させてください」という市からの連絡を受けはしたが、あの状況で要支援者を避難所に連れて行くことは不可能である。私の近所では、道路が4か所ほど冠水し、車2台が突っ込んでいたところもあった。いろいろな情報が錯綜していたため、この辺も整理していただきたい。</p>

発 言 者	内 容
	<p>また、避難所の在り方について、現在は小学校の体育館が第一次避難所になっていると思うが、ずぶ濡れの状態で避難してきた市民は風邪をひくことも考えられる。今回は大雨であったが、寒い時期や蒸し暑い時期に本当に避難させることがよいことなのかも含めて、審議していただきたい。</p>
座長	<p>計画していないことが起こり、それを短期間にどうさばいていくかという非常に難しい問題を一つひとつ改善していかないと、これより大きい災害が発生したときに、また大変なことになる。</p> <p>ご意見を次回以降の会議にいかしていきたい。</p> <p>この件に関して、事務局から何かコメントはあるか。</p>
事務局	<p>この後、コミュニティからの声を紹介させていただくが、あらゆる手段を用いた情報発信や要支援者への支援の呼び掛けのタイミング、また、避難所の環境整備、災害対応におけるコミュニティとの関わり方など、地域の方から、たくさん意見をいただいているため、今後の改善策としていかに整理していきたい。</p>
委員	<p>市が発令する避難情報で、警戒レベル2.5は発令されたのか。経過を見ると、発令されたのか、発令されなかったのかがよく分からなかった。発令を聞くことにより、事前の準備ができる点では、非常に重要になってくる。</p> <p>情報の伝達として、SNSやホームページ、ひたちナビなどたくさんあるが、どこの課がどういう発信をするという取り決めが明確になっているのか教えてほしい。</p> <p>また、避難者に対する情報提供を今後どのように行っていくのか、現状でもよいので説明してほしい。</p>
事務局	<p>警戒レベル2.5の発令については、結果としてできなかった。午後4時の土砂災害警戒情報の発表時点では、既に警戒レベル4に相当する気象状況であったため、レベル2.5や3を経ずに、警戒レベル4の避難指示を発令することになった。</p> <p>情報の伝達については、9月8日に防災無線を3回流したが、その情報がホームページやSNSとリンクするようになっている。</p> <p>また、避難所や避難情報については、防災対策課が県の防災情報システムに入力することにより、Lアラートとして、テレビやラジオ、インターネットなどの情報メディアと情報共有できる仕組みになっている。</p> <p>なお、情報発信の担当課としては、広報戦略課が担当する部分と防災対策課が担当する部分がある。</p>
委員	<p>情報発信は、市民に分かりやすいように、重複しないよう、一元管理されていけばよいが、いろんな情報が流れると、現場や市民は混乱する。正しい情報として流れるのであれば問題ないが、必ずしも正しい情報として流れるとは言いきれないため、情報の管理について、今後の対策の中に織り込んでいただきたい。</p>

発 言 者	内 容
座長	情報の出し方には、一般的に、まさに避難しなければいけない、命を守るための情報の出し方と、その後、何とか復旧を始めようとするときの情報の出し方の２段階に分かれる。市民に分かりやすく情報提供できる形に整理しておく必要があるため、次回以降の議論に入れさせていただきたい。

(3) 台風13号災害対応に関する地域の声について (資料8)に基づき、事務局説明)

【委員からの意見等】

発 言 者	内 容
委員	今回の洪水箇所とハザードマップのマッチング、検証はされているのか。今回の災害との関連について伺いたい。
事務局	内水ハザードマップは、内水の氾濫と市が管理する河川の氾濫を含めてシミュレーションしたものであるが、実際の結果を見ると、一致している部分は多いが、一致していない部分もあった。今後、実際の状況とハザードマップの検証が必要であると考えている。 また、令和6年度には、県が東連津川や宮田川などの2級管理河川の洪水浸水想定区域を指定する予定であり、この結果が出た際には、市のハザードマップに反映していきたいと考えている。
委員	大きな河川については把握できると思うが、大事なのは、中小河川の情報である。実際、中小河川の溢水により中小企業の工場に水が入り、機械が動かなくなる被害を受けた。 平時からの予防保全や啓発が重要であるため、今後の対策をお願いしたい。
座長	市では、どこが浸水したという実績を把握し、情報としてまとめているのか。
事務局	り災調査の結果をマップに落とし込み、床上浸水や床下浸水の状況を見ることができシステムがあるため、どのエリアで浸水が多かったかの情報は把握している。
座長	その情報を各委員に公開することはできるか。それとも非公開か。個人情報に引っ掛かるか。
事務局	公開の可否については、次回までに検討したい。
座長	どのエリアで、どのようなことが発生したのかという情報を集めることがポイントであり、各委員に公開し、情報として入れていただくことで、何か見えてくるのではないかと思う。 どこまでできるかは分からないが、検討してほしい。
委員	ひたちナビの内水氾濫の情報を見てみると、私が活動している地域の床上浸水、床下浸水の状況と内水ハザードマップは、大体一致していたと思う。

発 言 者	内 容
	<p>やはり、要支援者をいち早く避難させるという観点から、もっと正確な情報があれば、自分で避難することが難しい高齢者や障害者の方の避難を早めに促すことがきたのではないかと感じた。</p> <p>今回の災害とハザードマップの整合性を取り、より正確なものにしていただければ、私たちの活動に非常に役立つため、よろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>今回、ハザードマップの内水氾濫エリアとしてお示した箇所において、河川水路等からの溢水により床上・床下浸水になったところがある。</p> <p>先程も申し上げたように、市では、り災証明書の申請があった箇所一つひとつをマップに落とし込み、また、コミュニティからヒアリングした実際の浸水状況なども照らし合わせてあるため、今後しっかりと検証していきたいと思っている。</p> <p>また、座長からも話があったように、ハザードマップだけではない、それ以外の要因で溢水したところもあるため、地域の声をよく聞き、しっかり情報を把握していきたいと思っている。</p> <p>さらに、コミュニティから地域独自のハザードマップを作りたいという声もいただいたところであり、今回、ハザードマップの重要性を改めて強く認識したため、今後、各委員の意見を伺って検討していきたいと考えている。</p>
座長	<p>ハザードマップは作り方が決まっており、基本的には、それに従って作成しなければならない。市が浸水想定区域をもっと広く設定できればよいが、そう簡単にはできないと思う。</p> <p>地域の方々が、バッファゾーンを決めておくことも、効果があると思う。</p>
委員	<p>今回の災害において、要支援者に対する行政、コミュニティ、民生委員の役割分担が明確にされていなかったと感じた。避難が必要になったときに、誰がどこの要支援者宅に迎えに行き、搬送するのか。行政、民生委員、コミュニティなのか。</p> <p>協働体制をしっかりと確立させるためにも、行政とコミュニティ、民生委員の役割分担を明確にしていきたい。</p>
事務局	<p>避難行動要支援者への対応については、コミュニティからも、誰がどのような対応を取るのかという課題をいただいているため、今後、具体的な改善策を考えていきたい。</p> <p>なお、避難行動要支援者に対しては、現在、コミュニティや民生委員の協力を得ながら、個別避難計画の作成を進めている。市内全域で対象者数もかなり多いため、まずは、ハザードマップのエリア内から作成を始め、今年度からエリア外の作成を開始したところである。</p> <p>しかしながら、その市内全域の避難行動要支援者一人ひとりを誰が支援し、どういう方法で、どこの避難所に連れて行くのかという計画の作成が終わっていた方にうまく連絡が行き届かなかった点は、反省しなければならないと</p>

発 言 者	内 容
	<p>思っている。</p> <p>作成された計画は、まだ一部の方だけであることから、令和7年度の完了を目標に、全ての方の計画作成を進めているところである。</p>
委員	<p>災害が起きた後の応急復旧のことだけでなく、災害を小さくする、少なくする減災は、とても大事なことである。</p> <p>市内には、かなりの農地と水田があり、県内でも活用されているところがあるように、雨水を受け、入ってきた量を少しずつ、時間をかけながら川に流す「田んぼダム」の活用をもっと真剣に考えてもらえれば、川の氾濫や洪水は縮小するのではないかと考えている。</p>
座長	<p>懇話会で田んぼダムの活用について決めることは難しいが、今回のように、短時間に降った大量の雨水をいかに食い止めるかという点では、非常に重要であると思う。</p>

(4) その他（意見交換）

発 言 者	内 容
委員	<p>災害対策基本法では、予防、応急、復興の3つのサイクルがあるが、今回の懇話会については、中小河川の氾濫や浚渫、事前の清掃など、災害を小さくする予防という観点から、災害予防を議題として触れた方がよいのではないかと思った。</p> <p>また、住民のための災害情報について、話し合いができればよいと思う。</p>
座長	<p>このように具体的な点を挙げていただけると、懇話会の中で議論ができる部分があるかもしれない。意見としてまとめたいと思う。</p>
副座長	<p>私が気になっているのは、市民の生命の維持やメンタルヘルスである。</p> <p>そして、こうした話し合いをするときは、平常時における災害の予防、災害が起きて避難するまでのところ、避難してからのところ、そして、避難が終わって、平常に戻ったときの四つの段階を考える必要があると思う。</p> <p>私は、市の住生活基本計画策定委員でもあるため、市民アンケートでの興味深い結果を紹介するが、若い方たちは実際の住生活の中で、煩わしさのないコミュニティ関係を重視していることが分かった。</p> <p>一方、私を含めた年上の人たちは、もう少し近所とのお付き合いがあった方がよいと思っており、そこがミスマッチであることに気付かされた。</p> <p>今回のようなことが起こったときには、やはり、コミュニティの力がとても大事であると認識しているため、若い人たちがどのようなコミュニティの在り方を求め、逆に、私を含めたシニア層の人たちがどのようなやり方を求めているかの擦り合わせを、今後の防災や普段の生活のためにも見直さなくてはいけないと感じた。</p> <p>また、東日本大震災のときには、避難所生活の中で女性たちが性被害に遭っ</p>

発 言 者	内 容
	<p>たり、性的な嫌がらせを受けたことも多々聞いており、実際に研究テーマにもなっている。</p> <p>避難所開設時には、市の職員が3人から4人配置されるが、コミュニティからも避難所の世話人という形で配置したらよいのではないかという意見もあったと思う。その中で、男女の割合を同数にすることで、避難者は、市の職員や世話人に相談しやすくなり、女性や男性とただけではなく、外国籍の方や障害のある方、あるいは、お子さんも垣根が低くなってよいのではないかと思った。</p>
座長	<p>災害が発生したときには、行政や地域の代表がやれることに限界がある一方で、人との関わりが非常に重要になってくる。</p> <p>この会議の中で、地域がうまく回るような形にしていければよいと思っている。</p>
委員	<p>現在、市では、要支援者の個別避難計画の策定を進めているということだが、大事なのは、一番身近な近所同士で情報を共有できる仕組みが構築されていることだと思う。</p> <p>私は、日立市に生まれ育って70年近くになるが、初めてこのような経験をしたため、この機会に、身近なところで情報を共有できる場を作り、役割分担のマニュアルを配りながら、声の掛け合いができるような人間関係を構築できるとよいと思った。</p> <p>要支援者への対応については、民生委員だけでは大変であるため、地域の方も一緒に協力し、役割を分担するような計画ができればよいと思った。</p>
座長	<p>今回の災害において、近所で助け合って乗り越えたという良い事例を事務局でまとめることはできるか。</p>
事務局	<p>今のところ、具体的な事例は持ち合わせていないが、コミュニティからの意見を伺うなどして、紹介できるものは整理していきたい。</p>
委員	<p>先程、地域の協力という話があったが、私が担当する学区は大きく被災したところであり、そこに障害を持つ90歳代の高齢者宅が床上浸水し、もはや住居として住めない状況になった。</p> <p>その方は、避難行動要支援者名簿に登録されていたため、地域の方が当日、避難先の小学校に連れて行き、その後、住居の泥のかき出しや災害ごみの搬出についても、地域の方が協力して対応してくれたという話を聞いて、地域の協力って、とても大事であると実感した。</p> <p>この高齢者には、子どもがおらず、9月9日時点で避難所も閉鎖してしまったため、私どもの施設に連れて行ったが、玄関先で新型コロナの抗原検査を行ったところ、陽性判定となり、施設での受け入れができなくなった。</p> <p>市内のどこの施設でも陽性者の受け入れは基本的に難しいため、そういう場合に、このような方を受け入れる施設の整備について、市の方で考えてほしいと思った。</p>

発言者	内 容
座長	<p>地域での好事例は、こうした情報から集まってくるものだと感じた。</p> <p>また、住むところがない、または、コロナの陽性になった場合はどうするかなど、その人や周囲の方々の困りごとを改善していくためには、このような声を上げていただくことがとても重要である。</p>
委員	<p>子どもを持つ保護者の意見として、3点話をさせていただきたい。</p> <p>まず1点目は、教育について。現在、防災訓練が各学校で行われているが、今回の台風を機に、普段から非常事態になったときの行動について、子どもたちで話し合ったり、また、考える機会を設けていただければ、保護者だけではなく、子どもたちも自主的、主体的に防災に取り組めると思うため、教育という観点で、何か学びの場を作っていただきたい。</p> <p>2点目は、子どもたちの心のケアについて。冠水によって、車が路上等に乗り捨てられていたり、土砂崩れや床上・床下浸水という被害状況を子どもたちは目の当たりにしており、また、テレビや新聞報道で日立市役所のセンセーショナルな被災状況を見て、子どもたちは、心に傷を負ったのではないかと思っている。そのため、子どもたちの心のケアをどうするかということについても、ぜひ考えていただきたい。</p> <p>最後に3点目は、情報の取得について。市の方でもSNSを含め様々な形で今回の災害状況を発信していたことを知ったが、実際に保護者が取得する情報は、お母さんたちのネットワークなどを通じて、高速道路の通行止めなどの情報を取得しており、取得している場所が違うと感じた。市が様々な媒体で情報を提供していても、市民に認識されていないのではないかと。</p>
座長	<p>ただ今の意見に関連して、教育委員会でも何かしら問題点を解決する必要があると思うが、教育との連携についても、懇話会の議論のテーマにできるか。</p>
事務局	<p>本日の市長からの挨拶の中で、災害復旧推進会議を設置し、災害復旧基本計画の策定について全庁を挙げて取り組んでいくという話があったように、事務局の総務部や市長公室のみならず、教育委員会を含めた他の部署も一緒になって、災害復旧基本計画の策定に向けて対応することになっている。</p>
座長	<p>懇話会としては、学校等からの要望をまとめるところまでしかできないが、その要望を担当部署につないで、実現に向けて進めていく流れになるのか。</p>
事務局	<p>今回は限られた部署の職員しか出席していないが、本日、各委員からいただいた意見については、それぞれの関係部署にきちんとつなぎ、次回の会議の際に対応等の状況について、報告したいと思っている。</p> <p>そのため、本日は、委員一人ひとりが気になったこと、気にかかったことなどをお寄せいただければと思っている。出席していない委員にも、きちんとつないでいきたい。</p>

発 言 者	内 容
座長	<p>委員から、情報発信をどうするかという意見が出たが、日立市は非常に頑張っている情報発信をしていると思う。</p> <p>市民がどこを見て、どのように取得すればよいのか分かっていない状態をどのように穴埋めしていくかについて、今後の懇話会の中で取り上げていきたい。</p>
委員	<p>私たちの団体は、日立市と災害応急復旧に関する協定を結んでおり、同時に、茨城県とも災害復旧協定を結んでいる。</p> <p>県の場合は、鳥インフルエンザなども災害扱いとなるため、連絡がある都度、出動している。</p> <p>一方、日立市の場合は、積雪についての連絡体制は確立されているため、早期の対応ができていた。</p> <p>しかし、今回の災害に対しては、先に県から連絡が入って、会員が出動する形になったため、市との連絡体制を見直していきたいと思っている。</p>
座長	<p>各団体等においては、情報を共有し、より良い形で連絡が取れるようにいただければと思う。</p> <p>この件に関して、事務局から何か意見があるか。</p>
事務局	<p>災害対応は、行政だけではできないものであり、コミュニティや関係団体との連携が大切であるため、連絡体制というものを、しっかり迅速にできるように整理する必要があると考えている。</p>
委員	<p>最近、私たちは、市の協力をいただいて、子どもたちの防災意識を高める防災少年団を立ち上げたところであり、今回こういう災害が起きたこともあり、これから活動の場を広げていきたいと考えている。また、私たちの子どもは、東日本大震災の頃に生まれていることもあり、防災意識が高い世代でもある。</p> <p>子育て世代からの意見ということで、先程、若者が地域のコミュニティに参加できていないという話があったが、防災意識を高く持っても、やはり子育てや仕事の都合でなかなか参加できないのが実情である。また、コミュニティへの参加を誘われているが、働いている母親も多く、参加できないと迷惑をかけてしまうため、お断りしている状況でもある。</p> <p>今回の学校の休校対応に関しては、中学校では前日に休校の連絡があったが、高校については、県立高校なのに学校によって対応が違ったところが気になった。また、高校では、午後から休校となり、結果として、電車が止まってしまったときのお迎えは、親が対応しなければならなかったため、特に働いている方の負担はとても大きかったのではないかと思う。高校は通学範囲が広いので、中学校と同様に休校にしてほしかった。</p>
座長	<p>学校の休校対応については、先程と同じように教育委員会につないでいただければと思う。</p>



発 言 者	内 容
	<p>また、普段から防災の場を広げて、どう活動していくかについては、地道にやっていくしかないと思っている。私としては、学校を中心に進めていけばよいのではないかとと思っている。</p> <p>この懇話会の中でもよいアイデアがあれば、お寄せいただきたいと思う。</p>
委員	<p>災害時にどのような対応ができるかを考えたが、支援の仕方は異なるし、どこから連絡がきて、どのように支援していけばよいのか分からなかった。</p> <p>私たちの会は、ほとんどが高齢者ではあるが、みんな元気であるため、役割分担を示してもらえれば、安心して支援ができると思っている。</p> <p>また、私たちの会は、全体として、コミュニティと消防本部にお世話になっているが、一部コミュニティに属していないところがある。コミュニティによって連絡の在り方が異なるため、災害が起きたときに、どのように連携を取っていけばよいのか不安である。</p> <p>今後の懇話会での議論を通じて、これからの災害対応の考え方について、会員に伝えていきたいと思っている。</p>
座長	<p>本当は分けるべきではないと思うが、災害については、女性の視点から議論すると、多様な意見が出るかもしれない。</p> <p>女性部会のような短期的な組織を立ち上げて、女性の声を集約することもよいと思うが、どこまでできるかは検討したいと思う。</p>